

『適切なケアマネジメント研修（疾患別ケア・認知症編）』に参加して

報告者：鳳鳴苑在宅介護支援センター 坪内 理香

令和 7 年 7 月 22 日と 10 月 21 日の計 2 回、国際医療福祉大学大学院教授 石山 麗子先生の『適切なケアマネジメント研修疾患別ケア』を受講しました。疾患別ケアは、令和 5 年度の脳血管疾患編、令和 6 年度の心疾患編に続いて、今年度の認知症編はその第 3 弾となります。

毎年疾患別ケア編を受講させていただいていることに加えて、日頃よりよく学んでいる認知症に関連する研修なので、他の疾患に比べて苦手意識は薄く、ケアマネジメントの抜け漏れが少ないのではないかと高を括りながら受講しました。

ところが、先に学んだ 2 疾患とは異なる特徴がありました。大項目は 1 番からはじめるのではなく 0 番である『ここまでの経緯の確認』からはじめること、つまり認知症と診断される前段階でどのようなエピソードがあったのか、また、診断に至るまでに関わってきた職種等との連携についてアセスメントすることが重要だということです。

私自身、研修を通じて介護支援専門員として出会う前の情報である、ご本人の役割や日常生活のリズム、人間関係等の過去に対する情報の収集が完全に情報不足であることを認識いたしました。また、これらの前段階の聞き取りを疎かにしては認知症の方の意思決定支援や尊厳の保持への支援は不可能だと理解しました。まだまだ浅学菲才だと痛感しています。

先生が演習として提供くださる【in-out 活動状況表】を用いて丁寧に対象の方のアセスメントをした結果、ほぼ毎回新たな課題を発見します。その課題を多職種で共有することで、適切なケアが実現するのです。

これからもひとりひとりに寄り添ったケアマネジメントが提供できる介護支援専門員でありたいです。また、そのためのツールとして「適切なケアマネジメント手法」は活用していきたいと思います。

機会があるなら、また石山先生から学びたいです。また、これからも先生が富山県のために尽力していただけるのであれば、まだ受講してない介護支援専門員のみならず、それ以外の介護に関わる様々な職種の方にも受講してほしいと切願します。

※この研修はオンラインにて開催されました